



問 共生社会の実現を推進するための認知症基本法の施行を受けて、認知症当事者の声を聞く、尊厳を守るという視点を踏まえ、どのように施策を進めていくのか、考えを伺う。

答 これまで、認知症に関する地域の理解促進、物忘れ予防健診などでの早期発見と早期支援、成年後見制度の活用などの権利擁護の取り組みを進めてきた。また、家族介護者への支援や虐待防止などの個別の相談支援も行っている。本区においても法の趣旨を踏まえ、これらの取り組みをさらに推進していく必要があると考えており、今後、本人の意思の尊重、尊厳ある生活の保障、そして、権利擁護を基本的な視点に据えて、さらに施策を充実していく。

※他の質問項目 普及啓発のためイベントの実施 など

人と動物の共生社会の推進

問 今回実施した、ペットの防災教室のような内容を継続して開催していただきたいと思うが、考えを伺う。



ペットの防災教室

答 昨年度から、しつけ教室の一環としてペットの防災教室を実施し、飼い主の自助と飼い主同士や近隣との互助が大切であることなど、飼い主力を高めることの大切さを周知している。飼い主の災害意識を高めるために防災教室を継続開催し、効果的な啓発方法についても検討していく。

※他の質問項目 (仮称)アニマルフェスティバルの開催 など

魅力ある学校づくり

問 総合教育センターにおける教育相談から、不登校相談に特化した「不登校支援窓口」を創設し、不登校について悩んでいる児童・生徒、保護者がワンストップで相談できる仕組みを構築するべきと考えるが、区の考えを伺う。

答 保護者が抱える不登校に関する不安や悩みを安心して相談できるように、現在の相談窓口の案内を「不登校・教育相談」と変更するなど、分かりやすい名称を早急に検討する。また、現在、総合教育センターに配置しているスクールソーシャルワーカーや心理専門員、教職経験者、警察OBなどの専門性を生かし、多様化する不登校の悩みにワンストップで対応できるように、他機関との連携強化を図っていく。

※他の質問項目 校内教育支援センターの設置 など

エンディング支援

問 超高齢社会において、区民の方が「しももの時」に家族や大切な方に必要な終活に関する情報を伝えられる、などなでも利用できる仕組みの構築が必要だと思う。本区において、先自治体のような「終活情報登録事業」を導入していただきたいと思うが、区の考えを伺う。

答 終活に関する情報の登録事業は、令和6年度から実施する、やすらぎ安心サポート事業と合わせて実施できないか、区民の要望なども踏まえて検討していく。

※他の質問項目 やすらぎ安心サポート事業 など

地域主体交通

かつしか区民連合

大規模災害への備えと自動運転技術の積極的な活用を

大規模災害時の対応 問 組織が発揮しうる課題解決能力・当事者能力と行政職員一人一人の能力

の再確認、育成が急務であると考えられているが、区長の見解を伺うとともに、有事・災害時の組織編成や執行体制を柔軟かつ効果あるものとするため、再確認、再検討をする必要があるかと考えるが、本区の考えを伺う。



能登半島地震で崩壊した家屋

答 本区では、職員の災害対応力向上のため、時勢に応じた各種訓練を実施してきた。令和6年度には運用訓練担当課長を配置し、組織編成と執行体制について確認を行っていく。

※他の質問項目 災害時の他自治体との相互調整 など

地域公共交通計画と自動運転

問 自動運転技術の計画策定に当たり、企業などと連携し区内での実証走行を積極的に実施することを求める。答 本区の地域特性にも対応可能な自動運転技術の確立状況を注視しつつ、企業の関与や公共交通事業者による導入の可能性を踏まえながら、引き続き研究していく。

※他の質問項目 グリーンスローモビリティの運行台数の増 など

東四つ木のまちづくり

災害に備え、誰もが安心できる社会づくりを

大規模な災害に備えたレジリエンスの向上

問 これまでの大きな災害を振り返ると、行政の長の強いリーダーシップと高い洞察力、迅速な行動力が緊急対応

や復興の成否を大きく左右したように感じている。元日の能登半島地震の発生に際して、区長はどのような考えを持たれたのか伺う。

答 行政の長として、まちづくりや自助・共助による初期消火活動など、事前のハード対策や訓練の重要性を再認識した。

※他の質問項目 地震保険の補助制度 など

児童相談所の一時保護の課題

問 ケースごとに可能な限り手紙の交換やSNS、ビデオ通話などを活用し、家庭復帰後の親子の絆を維持する取り組みを進めていく必要があると考えるが、見解を伺う。

答 個々の状況により面会を希望する保護者の意向に直ちに沿えない場合は、保護者に今後の見通しも含めて、丁寧に説明を行うことを心がけているほか、手紙の交換やSNS、ビデオ通話の活用、プレゼント交換などを行うことで絆を保つよう努めている。

※他の質問項目 一時保護の判断における現状と課題 など

日本共産党葛飾区議会議員団

スファイア基準を満たす防災対策と大型開発より区民生活中心に

問 スペースと緑豊かな水元公園を内外に発信するため年間を通して土日・祝日にシャトルバスを運行し、その際子ども料金を無償にしてはどうか。答 子ども料金無償化と同伴する大人も含めた利用者増加の可能性については、引き続き運行するバス事業者に検討を促していく。

※他の質問項目 2024問題 など

区内バス交通

私学事業団運動場敷地の取得

問 区民合意のないスタジアムを含む大規模開発計画は撤回し、運動場を将来的にも維持し、区民のスポーツ振興に寄与すべきと思うがどうか。答 取得後はスポーツ施設として区民に利用してもらい、将来的にはスタジアムを有する都市計画公園として整備していく方向で検討を進めている。

※他の質問項目 私学事業団総合運動場敷地の取得費 など

無所属 (※8)

困難を抱えている女性への支援と住まいの安定的確保を

女性支援新法

問 女性の困難を、区どのように認識しているのか伺う。



男女平等推進センター(ウィメンズパル)

答 女性支援新法によると、性的被害、家庭状況、地域社会との関係性、その他さまざまな事情により、日常生活や社会生活を円滑に営む上で困難を抱える女性、または、その恐れのある女性と定義されており、区も貧困や生活上困難な問題を抱える女性の相談を受け付け、対応をしている。

※他の質問項目 支援体制 など

切れ目なく、安定した住まいの支援

問 安定した住まいの確保のため、ひとり親世帯への家賃助成制度を求めたい。区の考えを伺う。

答 ひとり親世帯を含む住宅確保要配慮者に家賃債務補償費用を補助するなど支援を展開し、ひとり親世帯への居住支援として、都営住宅の優遇抽選制度などの紹介を行っており、現時点では、制度創設に取り組み予定はないが、引き続き、安定した住まいの確保のための支援を行っていく。

※他の質問項目 職員の人権への理解促進・意識向上 など

バス交通、仕切りや

突起物がある公共のベンチ

問 仕切りや突起物がある公共のベンチ